

職員教育システム運用後5年の発表単位の分析

渡邊まどか¹⁾ 勝尾 信一¹⁾ 吉江由加里¹⁾

要 旨：平成16年度より運用を開始した職員教育システムでは、職種に応じて、5年間の合計発表単位に対して目標単位を定めている。運用後、平成20年度をもって5年が経過したため、発表目標単位達成率及び発表内容について分析した。発表単位の評価対象となった576名の平成16年度から平成20年度までの5年間の発表単位・内容について分析した結果、全体の達成率は46.7%と職員教育委員会としての目標80%を大きく下回った。部署や職種全体での達成のための取り組みが必要と考える。また、目標単位と同じまたは1単位上回った達成者は、勤務年数5年未満職員及び目標単位数の少ない職種はセンター内研究会発表だけで単位を獲得し、5年以上職員及び幹部職員はセンター内研修会講師やセンター内研究会発表及びセンター内研修会発表にて単位を獲得して目標を達成していた。勤務年数5年未満職員及び目標単位数の少ない職種はセンター内研究会発表が目標単位達成への道と考える。しかし、5年以上職員及び幹部職員はセンター内研究会発表だけでは達成できないため、その他にセンター内研修会発表や県内学会での発表、または5年のうちに自分の得意分野をつくりセンター内研修会で講師をするなど工夫が必要と考える。

【Key words】 職員教育, 学会発表, 単位制

結 言

新田塚医療福祉センター(以下、センター)では、全職員は教育を受ける機会が平等に与えられ、その成果が正しく評価されなければならないという考えの下、平成16年度より新田塚医療福祉センター職員教育システム¹⁾を制定している。職員教育システムでは、職員を対象とするセンター内の研修とセンター外で開催される学会・研修会等への参加・発表に関して規定し、それぞれに成果目標を設定している。運用後、平成20年度をもって5年が経過した。発表目標単位についての評価は今回が初めてであったため、その達成率及び発表内容について分析したので報告する。

1. 研修について

研修は、指定研修としての新採用時研修・(就職後)3ヶ月研修・3年研修・5年研修・7年研修・10年研修・幹部研修および自主研修からなる。指定研修は必修であり、

センターの義務として新採用時、(就職後)3ヶ月時、3年時、5年時、7年時、10年時、幹部登用時に行うものである。一方、自主研修は全職員が自主的に学習することを目標に行うものである。

(1) 自主研修

自主研修には発表と参加のふたつの形式がある。発表は学会等の準発表・発表・講演・著書・論文等を指し、参加は学会・研修会等への参加を指す。いずれも単位に換算し、目標を設定して評価する。

(2) 発表目標単位

学会等の準発表、発表、講演、会長・座長に関しては、当該学会等の規模に応じてそれぞれに単位を設定する(表1)。著書・論文に関しては、査読の入らない投稿論文は対象外とし、センター内外で区別して単位を設定する。これらの5年間の合計単位に対して目標を定める。

勤務年数5年未満の職員は特定の職種を除き一律2単位を目標とし、5年以上の職員は職種によって目標

¹⁾新田塚医療福祉センター職員教育委員会
(受付日 2010年3月)

単位が異なる。また、5年以上の幹部職員の目標単位は別に定める(表2)。

(3) 参加目標単位

学会・研修会等の参加を時間で換算して単位を設定

し、それら1年間の目標単位を職種に応じて定める(表3)。ただし、すべての職種を通して「接遇」1単位以上、「安全管理」2単位以上、「感染防止」2単位以上を必須とし、目標単位はこれらを含めたものである。

表1：学会研修会等発表単位獲得基準

	センター内	福井県内	地方会	全国学会	世界学会
医師					
会長・座長等	0	2	2	4	8
講演	1	3	5	10	20
発表	0	2	2	4	8
準発表	0	1	1	2	4
医師以外					
会長・座長等	1	2	2	4	8
講演	3	3	5	10	20
発表	2	2	2	4	8
準発表	1	1	1	2	4

論文(正式な査読のはいるもの)・依頼原稿は1編につき4単位獲得とする
センター雑誌に掲載された論文は1編につき2単位獲得とする

表2：発表目標単位(5年間単位)

- *途中、幹部職となった場合は、次の年度始まりから目標単位を変更する
- *途中、職種が変更した場合は、次の年度始まりから目標単位を変更する
- *施設管理課、補助者、パート、年契約職員は単位設定なし

勤務経験5年未満の全職員：2単位(上記の単位設定なしの者は除く)

勤務経験5年以上の職員

職種	一般職員	幹部職員	職種	一般職員	幹部職員
薬剤師	3	5	臨床工学技士	2	5
保健師	3	5	義肢装具士	3	5
助産師	3	5	歯科衛生士	3	5
看護師	3	5	診療情報管理士	3	5
准看護師	2	4	介護職員(含介護福祉士)	2	2
放射線技師	3	5	相談員	3	5
臨床検査技師	3	5	ケアマネージャー	3	5
衛生検査技師	3	5	管理栄養士(含栄養士)	3	5
コンピューター技術員	3	5	調理職員	2	2
理学療法士	3	5	保育士	3	5
作業療法士	3	5	事務員(医事系)	2	3
言語聴覚士	3	5	事務員(一般系)	2	2
視能訓練士	3	5	看護系専任教員	3	5
臨床心理士	3	5	リハ系専任教員	3	5
認定心理士	3	5			

表3：参加目標単位（1年間単位）

職種	単位	職種	単位
薬剤師	12	臨床工学技士	10
保健師	12	義肢装具士	12
助産師	12	義肢装具補助員	10
看護師	12	歯科衛生士	10
准看護師	12	診療情報管理士	12
看護補助	10	介護職員（含介護福祉士）	10
放射線技師	12	介助員	10
臨床検査技師	12	相談員	12
衛生検査技師	12	ケアマネージャー	12
コンピューター技術員	12	管理栄養士（含栄養士）	12
コンピューター助手	10	調理職員	10
理学療法士	12	保育士	10
作業療法士	12	事務員（医事系）	12
言語聴覚士	12	事務員（一般系）	10
視能訓練士	10	電話交換	4
臨床心理士	10	管理課職員	10
認定心理士	10	看護系専任教員	12
理療士	10	リハ系専任教員	12
作業助手	10	パート（年契約職員）	8
機能訓練指導員	10		

方 法

平成20年度で5年を経過し、発表単位の評価対象となった576名の平成16年度から平成20年度までの5年間の発表単位をまとめ、職種別に発表目標単位達成率を算出した。そして、発表単位が目標単位と同じであった職員と、1単位上回った職員の発表内容について分析した。また、平成20年度の全職員の参加目標単位達成率と比較検討した。

結 果

対象者576名中269名(46.7%)が目標を達成していた(表4)。勤務年数別では、5年未満職員194名中90名(46.4%)、5年以上職員320名中126名(39.4%)、幹部職員62名中53名(85.2%)が達成していた。職種別の達成率は、言語聴覚士・臨床工学技士・歯科衛生士等10職種が80%を超えており、視能訓練士・准看護師・

保育士等8職種が50%に満たなかった。

また、達成者の目標単位と実際の発表単位との差は、目標単位と同じであった職員が55名、1単位上回った職員が33名であった(図1)。目標単位と同じまたは1単位上回っての達成者88名の発表内容は、勤務年数5年未満職員31名中24名(77.4%)がセンター内研究会発表にて単位を獲得し(図2-1)、5年以上職員及び幹部職員57名中14名(24.6%)がセンター内研修会講師にて、9名(15.8%)がセンター内研究会発表及びセンター内研修会発表にて単位を獲得していた。5年以上職員及び幹部職員でも目標単位数の少ない職員10名(17.5%)は、センター内研究会発表にて単位を獲得していた(図2-2)。

平成20年度の参加目標単位達成率は、必須項目が74.8%、全体では73.1%であった(表5)。職種別の達成率は、視能訓練士・義肢装具士・臨床心理士等10職種が80%を超えており、コンピューター技術員・歯科衛生士・診療情報管理士等4職種が50%に満たなかった。

表4：発表目標単位達成率

職種	5年未満職員			5年以上職員			幹部職員			計		
	人数	達成	率(%)	人数	達成	率(%)	人数	達成	率(%)	人数	達成	率(%)
薬剤師	1	1	100	5	2	40.00				6	3	50.00
看護師	72	33	45.83	124	43	34.68	29	24	82.76	225	100	44.44
准看護師	1	0	0	22	2	9.09				23	2	8.70
放射線技師	1	0	0	9	8	88.89	2	1	50.00	12	9	75.00
臨床検査技師	4	2	50.00	8	6	75.00	2	2	100	14	10	71.43
理学療法士	13	11	84.62	5	4	80.00				18	15	83.33
作業療法士	9	9	100	1	0	0	1	1	100	11	10	90.91
言語聴覚士	2	2	100	2	2	100	1	1	100	5	5	100
視能訓練士	1	0	0							1	0	0
臨床工学技士	1	1	100							1	1	100
義肢装具士							1	1	100	1	1	100
歯科衛生士	1	1	100	1	1	100				2	2	100
診療情報管理士	1	1	100				1	1	100	2	2	100
コンピューター技術員				1	1	100	1	1	100	2	2	100
介護職員(含介護福祉士)	26	14	53.85	39	16	41.03	2	2	100	67	32	47.76
相談員	1	0	0	7	5	71.43	2	2	100	10	7	70.00
ケアマネージャー	1	1	100	2	0	0	1	1	100	4	2	50.00
管理栄養士(含栄養士)	4	2	50.00	4	3	75.00	2	2	100	10	7	70.00
調理職員	7	0	0	16	6	37.50	1	1	100	24	7	29.17
保育士	2	0	0	12	3	25.00	2	0	0	16	3	18.75
事務員(医事系)	18	2	11.11	28	5	17.86	5	4	80.00	51	11	21.57
事務員(一般系)	24	6	25.00	22	7	31.82	4	4	100	50	17	34.00
看護系教員	3	3	100	4	4	100				7	7	100
リハ系教員	1	1	100	8	8	100	5	5	100	14	14	100
計	194	90	46.39	320	126	39.38	62	53	85.48	576	269	46.70

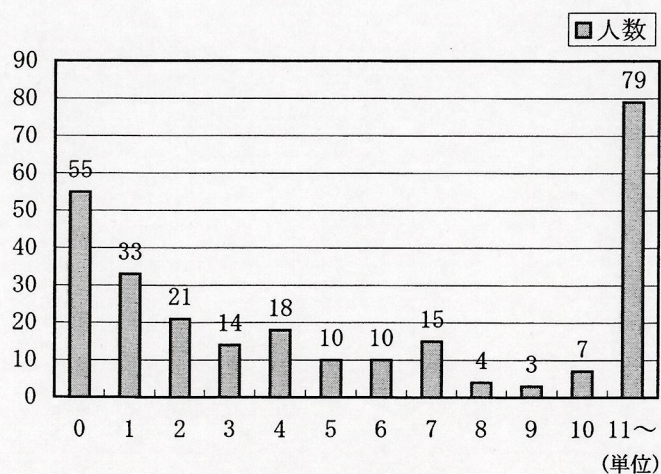


図1：発表目標単位との差

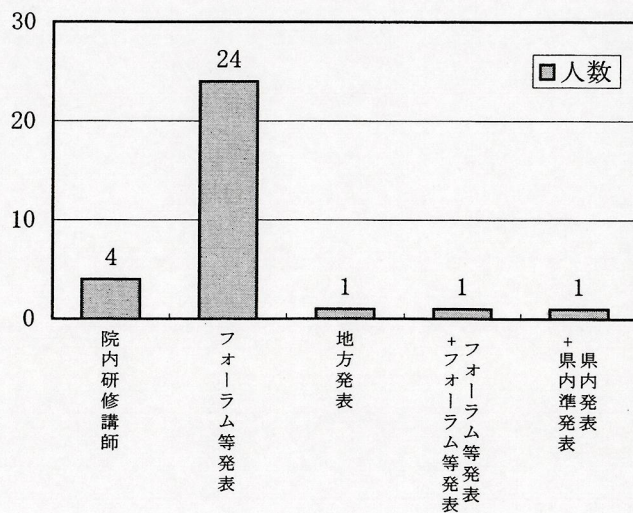


図2-1：目標単位と同じまたは1単位上回った達成者の業績内容（5年未満職員）

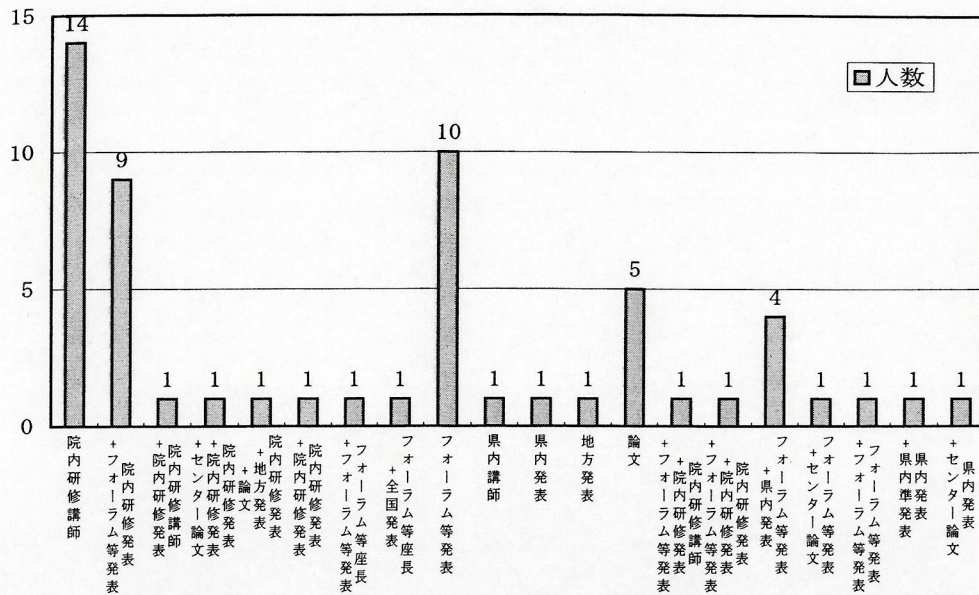


図2-2：目標単位と同じまたは1単位上回った達成者の業績内容（5年以上職員・幹部職員）

表5：平成20年度参加目標単位達成率

		必須項目別達成率			必須単位達成率	目標単位達成率
		接遇	感染防止	安全管理		
全体		83.94	83.08	80.93	74.78	73.06
職種別	薬剤師	92.31	84.62	76.92	76.92	76.92
	看護師	84.87	83.98	83.68	75.37	72.40
	准看護師	85.19	92.59	92.59	85.19	85.19
	看護補助	97.50	97.50	97.50	95.00	95.00
	放射線技師	84.62	84.62	76.92	76.92	76.92
	臨床検査技師	90.91	90.91	90.91	90.91	90.91
	理学療法士	66.67	73.81	66.67	64.29	61.90
	作業療法士	65.52	68.97	58.62	55.17	51.72
	言語聴覚士	78.57	85.71	78.57	64.29	57.14
	視能訓練士	100	100	100	100	100
	臨床工学技士	100	100	50.00	50.00	50.00
	義肢装具士	100	100	100	100	100
	歯科衛生士	66.67	66.67	100.00	33.33	33.33
	診療情報管理士	66.67	66.67	33.33	33.33	33.33
	コンピュータ技術員	0	100	0	0	0
	臨床心理士	100	100	100	100	100
	介護職員	85.15	83.17	75.25	75.25	72.28
	相談員	100	100	95.83	95.83	95.83
	管理栄養士	100	100	92.31	92.31	92.31
	調理職員	86.49	86.49	89.19	81.08	81.08
	保育士	89.47	94.74	84.21	84.21	84.21
	事務員(医事系)	93.65	77.78	80.95	73.02	73.02
	事務員(一般系)	84.38	79.69	79.69	71.88	71.88
	施設管理課	75.00	75.00	81.25	68.75	68.75
	看護系教員	72.73	63.64	72.73	63.64	63.64
	リハ系教員	50.00	50.00	58.33	41.67	41.67

考 察

病院における研修を単位制にした報告はほとんどない。松田ら²⁾は研修への参加が単位取得のみにとらわれる傾向を危惧しているが、発表・参加共に単位制にしたことで、実績が数値で表され、評価が容易になったというメリットが大きい。参加に関しては、職種別・施設別の達成率を公表することで、達成率の高い職種・施設は今後の継続の励みとしたり、低い職種・施設は自主的に研修会を開催するといった達成率を上げるための工夫をしたりと、それぞれに努力する姿勢がみられる。

発表に関しては、全体の達成率は46.7%と職員教育委員会としての目標80%を大きく下回る結果であった。しかし、10職種で目標達成率80%を超えていた。今後も継続して欲しいと考える。一方、8職種が達成率50%未満であった。この8職種のうち、参加単位達成率は80%を超えている視能訓練士・准看護師・保育士・調理職員は、勉強する土壌はできていると考え、発表を促していく必要がある。しかし、発表・参加共に達成率80%に満たない事務員(医事系)・看護師・介護職員・事務員(一般系)は、部署や職種全体での達成のための取り組みが必要と考える。

発表目標単位を達成するためには、勤務年数5年未満職員及び目標単位数の少ない職種は、センター内研究会での発表が達成への道と考える。しかし、5年以上職員及び幹部職員は、センター内研究会発表だけでは達成できないため、その他にセンター内研修会発表や県内学会での発表、または5年のうちに得意分野をつくりセンター内研修会で講師をするなどといった工夫が必要と考える。また、院外研修参加について回数や費用に制限を設けている病院が多い中^{3, 4)}、当センターでは、職員教育システムに則り、前年度の発表実績に応じて許可が出る仕組みになっている¹⁾。発表に関しては無条件で許可が下り、費用も支給される。このようにセンターの理解・支援があり、発表しやすい環境が整っている。センター内の発表だけに留まらず、センター外発表へと繋げる努力をして欲しい。そのためには、身近な発表経験者による助言やセンター外発表を視野に入れた計画をたてるという意識改革を図る必要があると考える。

ま と め

新田塚医療福祉センター職員教育システム運用後、5年が経過したため、発表目標単位達成率及び達成するための方法について分析した。達成率は職員教育委員会目標に満たない結果となった。部署・職種全体で取り組む土壌づくりが必要である。達成するための方法としては、勤務年数5年未満職員及び目標単位数の少ない職種は、センター内研究会発表が達成への道と考える。しかし、5年以上職員及び幹部職員は、センター内研究会発表だけでは達成できないため、他に県内学会での発表など工夫が必要である。

文 献

- 1) 勝尾信一, 吉江由加里: 全職員を対象とした職員教育システム. 日本医療マネジメント学会雑誌 2006; 7: 438-443.
- 2) 松田ゆかり, 久保晴美, 丸山祐子ら: 当院における院内職員教育システム～ポイント制度の有用性と問題点～. 日本透析医学会雑誌 2005; 38: 1025
- 3) 佐合茂樹: 病院職員教育の現状について. 医療経営最前線 経営実践編 2004; 14: 24-27
- 4) 勝尾信一: 職員の学会等出張の現状. 病院管理 2007; 44: 215